

## 編集後記

今号は、多くの方のご協力を得て、発刊できました。感謝いたします。ありがとうございます。それぞれのご専門やご経験がにじみ出る読みごたえのある文章をお寄せいただいたおかげで、編集担当として楽しかったです。

今回の編集の期間中にも、多くの教育に関する話題がニュースになりました。この編集後記を書いている時期には、大阪市の桜宮高校における教師による体罰と生徒の自殺の問題が多くの方の関心を集めています。大変に悲しい出来事であり、もし自分の息子がこのような状況に置かれたらと想像すると、腹の底に重いものを感じます。私が中高校生であった30年以上前、私の通った学校では教師による体罰というのは、ほとんど見聞きしたことはありませんでした。ただし、学生同士における先輩と後輩の関係の中での暴力行為というのは、特定のクラブ活動を中心として日常的に見聞きしたことがありました。中学の時、ソフトテニス部に所属していたのですが、意味もなく走らされたり、なんだか訳も分からず声を出させられることが嫌で、練習をよくさぼりました。私は今でもあまり運動することが好きでないのですが、その根底に中学の時のクラブ活動の嫌な思い出があるのは、否定できません。私の経験は昭和の時代の事にしかすぎないのでしょうか。現在でも、クラブ等の活動において、先輩後輩の関係におけるしごき、暴力がたくさんあることを耳にすることもあります。

私の心に思い浮かんだのは「帝国陸軍内務班の伝統の脈々とした流れ」という想いです。年上、経験の長い者のいうことを根拠なく受け入れることを由とする（古参兵）、他人を説得するときの根拠が権威や暴力であったりする（精神注入棒）。いつの時代の話だと暗澹たる気持ちになります。本当に心の底から嫌です。

何かの縁があって、教職課程に属することになったので、他人の人権に配慮し、合理的、科学的に判断することができ、その結果を適切に他人とコミュニケーションすることのできる学生を育てたいと思います。そのためには、何を伝えることが自分にできることなのか、心理学から言えること、心理学からだけでは言えないこと、来年度、授業をしながら学生とともに考えていきます。

岡田圭二（経済学部准教授）

---

### 愛知大学教職課程研究年報 第2号（教職課程センター開設記念号）

2013年2月12日発行

編集・発行 『愛知大学教職課程研究年報』編集委員会

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町四丁目60番6 愛知大学名古屋教務課気付  
(電話 052-564-6112)

印刷 株式会社 豊橋印刷社

---